

# 高校公民プリント (過去問類似)

## 日本の思想 No.8

名前

得点

/10

**問1** 元武士の経歴を持つ江戸時代初期の禅僧で、それぞれの身分に与えられた世俗の生業に励むこと自体が仏道修行であると言き、商人の営利活動も天から与えられた役目として肯定した人物は誰か。 (2014年 全国公立入試 類似)

1. 山鹿素行                      2. 中江藤樹                      3. 白隠慧鶴                      4. 鈴木正三

**問2** 日本の伝統的な生活文化や宗教的慣習において、初詣や節分、お彼岸などのように、毎年特定の時期や季節に繰り返して行われる慣習や行事の総称を何というか。 (2026年 全国公立入試 類似)

1. 年中行事                      2. 伝統芸能                      3. 冠婚葬祭                      4. 通過儀礼

**問3** 平安末期から鎌倉初期にかけて、俗世を離れて各地を遍歴し、自然のなかに身を置きながら人生の無常を和歌に詠み込んだ歌人は誰か。その私家集には『山家集』があり、桜や月を愛し、春の満月の頃に桜の下で入寂することを願う歌などが収められている。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. 西行                              2. 定家                              3. 兼好                              4. 慈円

**問4** 江戸時代の町人思想において、井原西鶴は、現世をはかないものとして否定的に捉える中世的な「憂き世」の観念を転換させた。彼が、人々が日々の生活の中で富や快楽を追求するありのままの姿を肯定的に捉え、現世の日常世界を表現した言葉は何か。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. 仮の世                              2. 憂き世                              3. 浮き世                              4. 後の世

**問5** 江戸初期の儒学者が徳川将軍家に仕えて講じ、幕府の官学的な地位を占めるにいたった学派は何か。この学派は、自己を慎み心を正す「持敬」を重視し、宇宙の理法と人間の道徳の合一を説いて、幕藩体制の身分秩序を正当化する理論的支柱となった。 (2021年 全国公立入試 類似)

1. 朱子学                              2. 陽明学                              3. 護国学                              4. 古義学

**問6** 明治から昭和にかけて活躍した日本の哲学者は、西洋哲学の論理を用いながら東洋的な思索を体系化しようと試みた。彼は著書『善の研究』において、主観と客観が分かれる前の直接的な意識状態を重視し、のちに主客を包み込む根底としての「場所」や、万物を生み出す根源としての「絶対無」の思想へと発展させた。この哲学者は誰か。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 和辻哲郎                              2. 内村鑑三                              3. 西田幾多郎                              4. 吉野作造

**問7** 敗戦直後の日本において、従来の道徳や権威が崩壊した状況下で、人間は一度徹底的に「墮ちきる (墮落する)」ことが必要であり、そのありのままの自分を出発点として、自らの手で新たな価値基準を創り出すべきだと説いた、『白痴』などの作品で知られる無頼派の作家は誰か。 (2026年 全国公立入試 類似)

1. 川端康成                              2. 小林秀雄                              3. 横光利一                              4. 坂口安吾

**問8** 幕末の日本において、天道にかなう生き方とは、功名や利欲を離れて純粹な心情に徹し、己の「誠」を尽くすことであると主張した思想家がいた。彼は、主君に忠を尽くす勤皇の精神がこの「誠」の実践を通じて天道に通じると捉え、のちの尊王攘夷運動に強い影響を与えた。松下村塾を主宰し、多くの門下生を育てたこの人物は誰か。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 橋本左内                              2. 吉田松陰                              3. 横井小楠                              4. 佐久間象山

**問9** 明治中期、井上馨外相らによる極端な欧化主義政策に対して、日本の伝統や文化の独自性を重視する立場から批判が起こった。志賀重昂らとともに政教社を設立し、雑誌『日本人』を発行して、西洋文明の長所を取り入れつつも日本独自の個性を保つべきだとする国粹主義 (国粹保存主義) を唱えた思想家は誰か。 (2018年 全国公立入試 類似)

1. 志賀重昂                              2. 徳富蘇峰                              3. 三宅雪嶺                              4. 陸羯南

**問10** 阿弥陀仏の救いを信じ、経典の読解や厳しい修行などの他の行いを一切交えず、ただひたすらに「南無阿弥陀仏」と唱えることのみによって極楽往生が遂げられるとする、法然が提唱した仏教思想を何というか。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. 選択本願                              2. 悪人正機                              3. 只管打坐                              4. 専修念佛

## 答え合わせ・解説 No.8

問1	答え 4 鈴木正三	「世法即仏法」を唱え、出家して修行するだけでなく、農業や商業などの世俗の職業（生業）に専念することがそのまま仏道修行（仏行）になると説いた。商人の営利活動も社会に貢献する正当な役目として肯定し、正直に励むべきだと主張したことで知られる。
問2	答え 1 年中行事	毎年決まった時期や季節に繰り返される初詣や節分、お彼岸などは、宗教的な起源を持ちながらも、人々の生活に深く定着した慣習である。これに対して、誕生、成人、結婚、葬儀など、個人の生涯の節目に行われる儀礼は「通過儀礼（イニシエーション）」と呼ばれ、区別される。
問3	答え 1 西行	平安末期から鎌倉初期にかけて活躍したこの人物は、北面の武士としての地位を捨てて出家し、各地を遍歴しながら自然と一体となる生き方を追求した。桜や月といった自然の風景に無常の思いを託した和歌を数多く残し、その歌風は後世の松尾芭蕉などにも大きな影響を与えた。彼の歌は私家集である『山家集』にまとめられている。
問4	答え 3 浮き世	井原西鶴は、現世を否定的に捉える中世的な「憂き世」観を排し、現世を肯定的な「浮き世」として捉え直した。眼前の日常世界の中で、人々が日々様々な快樂や富を追求する姿こそが、人間のありのままの生の真実であるとし、町人たちのリアルな生き様を肯定的に描いた。
問5	答え 1 朱子学	林羅山が奉じたこの学派は、宋代に大成された儒学一派である。自己を慎み律する「持敬（居敬）」や、事物の理を極める「窮理」を実践することで、天理と人倫が一致すると説き、厳格な身分秩序や徳徳を重んじたため、幕府の統治体制に適合し、官学的な地位を得た。
問6	答え 3 西田幾多郎	『善の研究』を著した西田幾多郎は、主観と客観が未分化な状態である「純粹経験」を出発点とし、のちにそれを発展させて「場所の論理」や「絶対無」の哲学を構築した。これは西洋の近代哲学（主客二元論など）を乗り越え、東洋的な「無」の思想を論理化しようとする試みであった。
問7	答え 4 坂口安吾	敗戦によって従来の価値基準や権威が崩壊した状況下で、人間は一度徹底的に「墮ちきる（墮落する）」ことが必要であると主張した。人間は墮ちきった状態にとどまり続けるほど強くないため、そのありのままの自分を出発点として、自らの手で新たな価値基準や権威を創り出すべきだと説いた。この思想は、戦後日本の既成の道徳や権威を否定し、人間の本質を見つめ直すものとして大きな影響を与えた。
問8	答え 2 吉田松陰	吉田松陰は、幕末期において独自の天道観を展開した。彼は、功名や利欲を離れて純粋な心情に徹し、己の「誠」を尽くすことこそが天道にかなう生き方であるとした。そして、主君に忠を尽くす「勤皇」の精神は、この「誠」を尽くす実践を通じて天道に通じるものであると捉えた。彼の思想は松下村塾を通じて高杉晋作や伊藤博文などの門下生に受け継がれ、幕末の尊王攘夷運動の精神的支柱となった。
問9	答え 3 三宅雪嶺	明治政府が進めた鹿鳴館に象徴される極端な欧化政策に対し、日本の伝統文化や国民的個性を維持しながら西洋の近代文明を主体的に受容すべきであるとする国粹主義（国粹保存主義）が台頭した。この立場を代表する人物が、志賀重昂らとともに政教社を結成し、雑誌『日本人』を通じて言論活動を展開した。なお、教育勅語の道徳を重視して国民道徳を説いたのは井上哲次郎、人格主義の立場から東西の古典を摂取したのは阿部次郎、超国家主義の立場から国家の改造を主張したのは北一輝などである。
問10	答え 4 専修念仏	末法の世において、智慧も徳もない凡夫（民衆）が救われるためには、阿弥陀仏の本願にすべてを委ねる必要がある。法然は、名号を唱えること以外の修行を排除し、念仏のみに専念することを往生の唯一の正行（正しい行い）とした。